
2006年3月期 決算説明会

株式会社 トクヤマ

2006年5月15日



説明内容

1. 06年3月期 決算説明
2. 06年度の業績予想
3. 3ヶ年計画の進捗／トピックス
4. 買収防衛策の導入
5. 内部統制システム構築の基本方針



1. 06年3月期 決算説明

(1) 決算概要

(2) 決算要因分析

(3) 業績推移



1-(1) 決算概要

(億円)

	05年度		04年度		増 減			
	連結	単体	連結	単体	連結		単体	
【損益状況】					金額	%	金額	%
売上高	2,633	1,711	2,375	1,554	+ 258	+10	+ 157	+10
営業利益	243	170	181	102	+ 61	+33	+ 67	+65
経常利益	214	161	153	86	+ 61	+40	+ 74	+86
当期純利益	139	107	110	76	+ 29	+26	+ 31	+41
	05年度		04年度					
	連結	単体	連結	単体	連結		単体	
【資産状況】								
総資産	3,611	3,068	3,089	2,583	+ 521		+ 485	
株主資本	1,790	1,660	1,343	1,253	+ 446		+ 407	
株主資本比率	49.6%	54.1%	43.5%	48.5%	+6.1%		+5.6%	

〔新株式発行+213億円、株式時価評価益+177億円〕



1-(2) 決算要因分析

- ①当期決算のポイント
- ②セグメント別 増減要因
- ③セグメント別 売上高/営業利益
- ④営業外損益明細(連結)
- ⑤特別損益明細(連結)



① 当期決算のポイント

- ◆ 化学品・セメントの製品価格是正等により原燃料価格上昇を転嫁
- ◆ 多結晶シリコンの価格是正が営業増益に大きく貢献

売上高：単体 +157億円、連結 +258億円

- ◆ 単体：概ね価格要因による増収
多結晶シリコン、苛性ソーダ、P O、セメント

- ◆ グループ会社：
 - (数量要因) 関西トクヤマ販売(新規連結)、シャノン、生コン各社
 - (価格要因) 新第一塩ビ(PVC)、サン・トックス(OPPフィルム)

売上原価：単体 +78億円、連結 +125億円

- ◆ 原燃料価格高騰による原価アップ
- ◆ グループ会社2社の原価処理変更
 - * 前期において処理方法を変更していた場合 : + 175億円(連結)



② セグメント別 増減要因(連結)

(億円)

	05年度		04年度		増 減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化学品	1,026	76	957	85	+ 68	+ 7	▲ 8	▲10
特殊品	767	161	671	92	+ 95	+14	+ 68	+74
セメント建材・他	840	34	746	32	+ 93	+12	+ 2	+ 7
計	2,633	272	2,375	210	+258	-	+ 62	-
セグメント間消去・全社費用	-	▲ 29	-	▲ 28	-	-	▲ 1	-
連結決算	2,633	243	2,375	181	+258	+10	+ 61	+33



セグメント別 増減要因：化学品

(億円)

	売上高			営業利益		
	05年度	04年度	差	05年度	04年度	差
トクヤマ	748	696	+ 51	39	43	▲ 4
グループ会社	278	260	+ 17	37	41	▲ 4
化学品 計	1,026	957	+ 68	76	85	▲ 8

	売上高要因	営業利益要因
トクヤマ	クロルアルカリ 苛性ソーダ・POの価格是正等により増収 NOC IPAの価格是正により増収 塩ビ(VCM) 新第一塩ビ向け価格是正により増収	ソーダ灰・塩カル、クロルアルカリ、NOC 原燃料高騰を価格是正で補ったが前年並み 塩ビ(VCM) 原燃料コスト上昇により損益悪化
グループ	新第一塩ビ(PVC) 価格是正により増収 サン・トックス 価格是正、販売数量増により増収	新第一塩ビ(PVC) 原料高を価格転嫁で補えず減益 サン・トックス 価格是正、生産効率化により損益改善



セグメント別 増減要因：特殊品

(億円)

	売上高			営業利益		
	05年度	04年度	差	05年度	04年度	差
トクヤマ	547	458	+ 88	140	69	+ 70
グループ会社	219	212	+ 7	20	22	▲ 2
特殊品 計	767	671	+ 95	161	92	+ 68

	売上高要因	営業利益要因
トクヤマ	<p>【S i 事業】</p> <p>電子材料 多結晶シリコン販売好調、価格是正が寄与 機能性粉体 乾式シリカの販売堅調</p> <p>【機能材料事業】</p> <p>I Cケミカル 半導体・液晶向け高純度薬品販売好調 窒化アルミニウム 下期販売回復</p>	<p>【S i 事業】</p> <p>電子材料 価格是正により増益 機能性粉体 乾式シリカは償却負担、湿式シリカは原料コスト上昇等により低迷</p> <p>【機能材料事業】</p> <p>I Cケミカル 原料価格高騰、償却負担増により減益 窒化アルミニウム 販売回復により増益</p>
グループ	<p>台湾徳亜馬 半導体・液晶向け高純度薬品販売好調 トクヤマ・サイラム・シリカ O S C社との提携効果により増収 ユーロディア 大型物件中止による減収 フィガロ技研 前年の海外特需がなくなり売上減</p>	<p>台湾徳亜馬 売上増、コスト削減により増益 ユーロディア、エイアンドティー 売上減、販売費増により減益</p>



セグメント別 増減要因：セメント建材その他

(億円)

	売上高			営業利益		
	05年度	04年度	差	05年度	04年度	差
トクヤマ	416	398	+ 18	20	18	+ 1
グループ会社	423	347	+ 75	14	14	+ 0
セメント建材他 計	840	746	+ 93	34	32	+ 2

	売上高要因	営業利益要因
トクヤマ	セメント 価格是正、固化材増により増収 資源環境 廃棄物処理量増加により増収	セメント 石炭価格上昇に対する価格是正が十分にできず減益 資源環境 処理量増加により増益
グループ	セメント販社 関西トクヤマ販売の新規連結、セメント販売回復等により増収 生コン会社 数量回復により増収 シャノン 樹脂サッシ販売増により増収	生コン会社 数量回復、合理化等により損益改善 シャノン 販売価格軟化、原料価格の高騰、販売費増により減益



③ セグメント別 売上高/営業利益

(億円)

	05年度		04年度		増 減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化学品	1,026	76	957	85	+ 68	+ 7	▲ 8	▲10
トクヤマ	748	39	696	43	+ 51	-	▲ 4	-
Gr. 会社(連結修正含む)	278	37	260	41	+ 17	-	▲ 4	-
特殊品	767	161	671	92	+ 95	+14	+ 68	+74
トクヤマ	547	140	458	69	+ 88	-	+ 70	-
Gr. 会社(連結修正含む)	219	20	212	22	+ 7	-	▲ 2	-
セメント建材・他	840	34	746	32	+ 93	+12	+ 2	+ 7
トクヤマ	416	20	398	18	+ 18	-	+ 1	-
Gr. 会社(連結修正含む)	423	14	347	14	+ 75	-	+ 0	-
計	2,633	272	2,375	210	+258	-	+ 62	-
セグメント間消去・全社費用	-	▲29	-	▲28	-	-	▲ 1	-
連結決算	2,633	243	2,375	181	+258	+10	+ 61	+33



④ 営業外損益明細(連結)

(億円)

		05年度	04年度	差	備 考
営業外収益	受取利息・配当	4	3	+1	
	その他	32	36	▲4	
		37	40	▲3	
営業外費用	支払利息・社債利息	16	18	▲2	
	その他	48	49	▲0	
		65	68	▲3	
営業外損益		▲ 28	▲ 28	+0	



⑤ 特別損益明細(連結)

(億円)

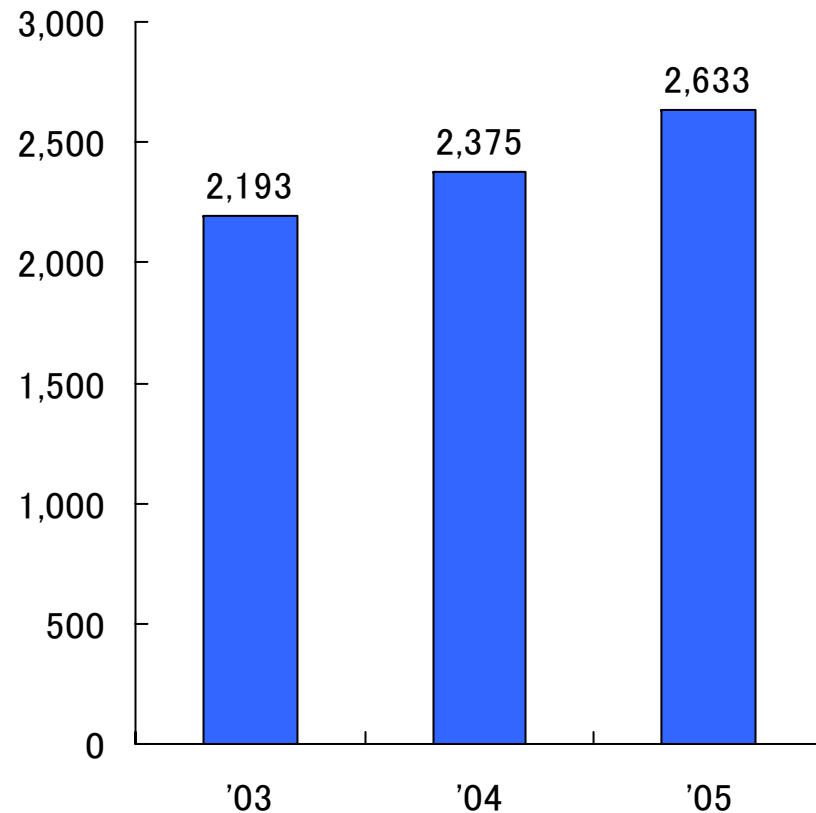
	05年度	04年度	差	備 考
特別利益	26	27	▲ 0	
特別損失	22	43	▲ 20	減損損失: 04年度14億円 05年度 0
特別損益	+ 4	▲ 16	+ 20	



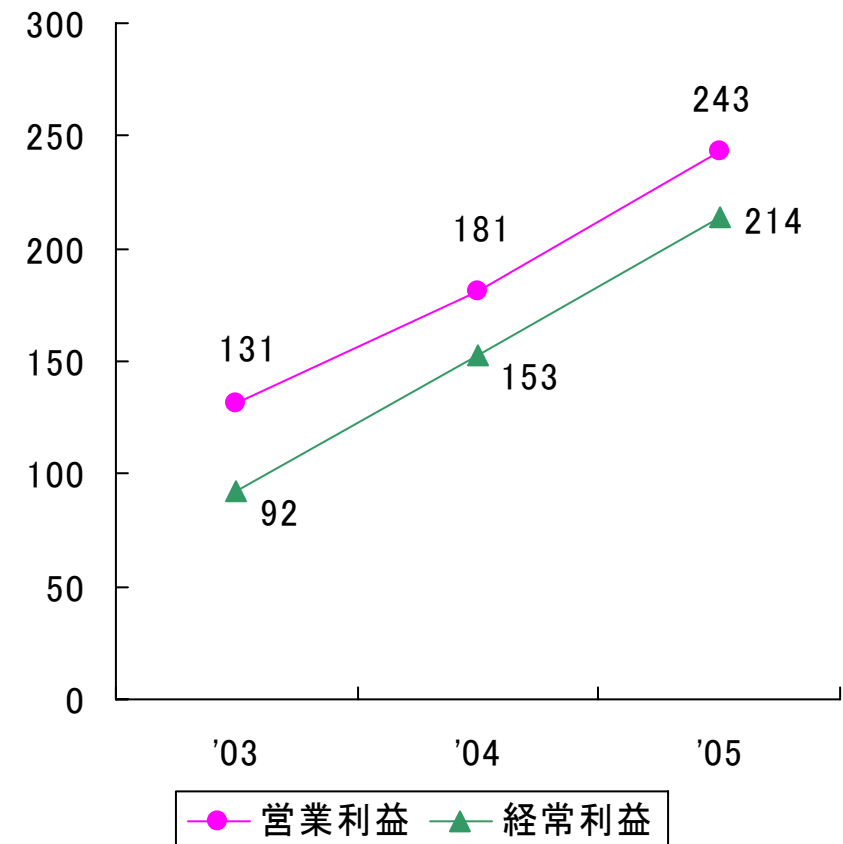
1-(3) 業績推移① (連結)

(億円)

売上推移



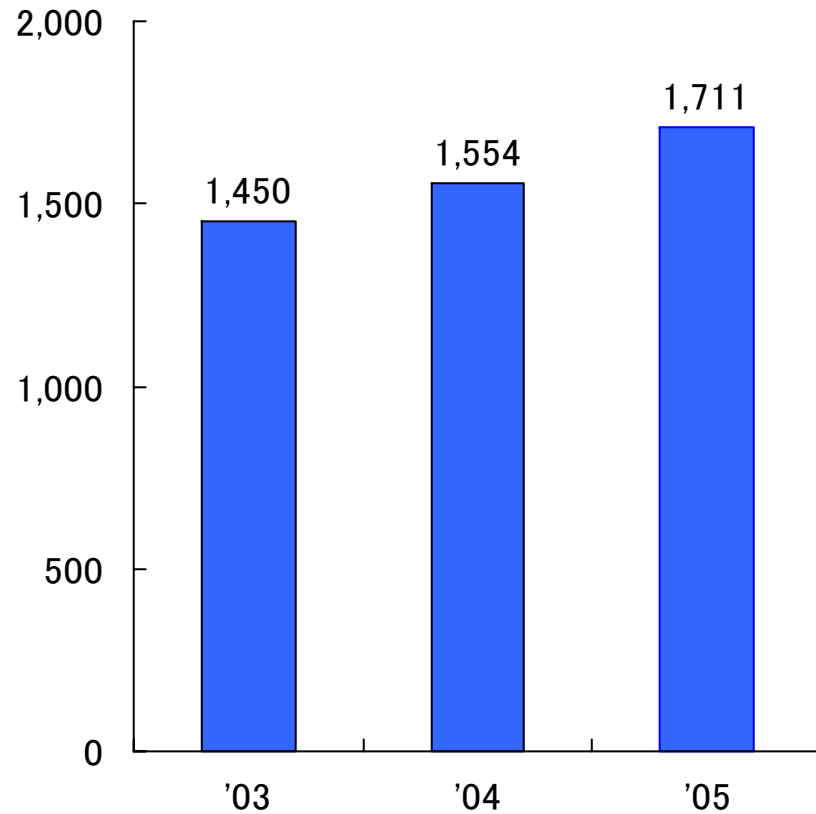
利益推移



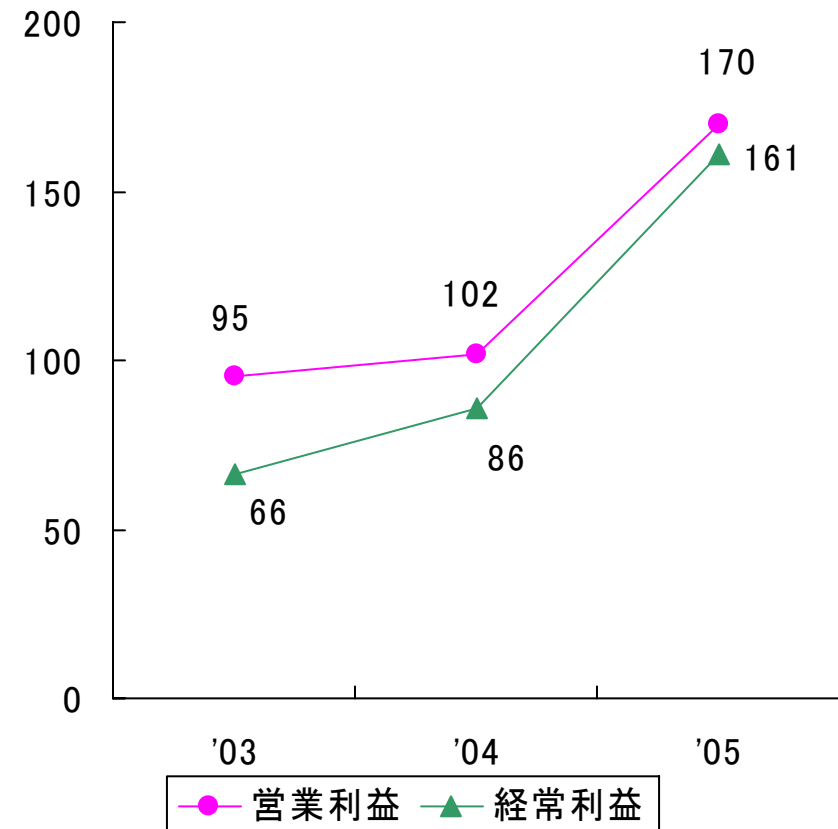
業績推移② (単体)

(億円)

売上推移



利益推移



2. 06年度の業績予想

(1) 06年度の事業環境と対応

(2) 06年度業績予想



2-(1) 06年度の事業環境と対応

■ 原料価格の高騰、高止まりを懸念

➡ 価格是正・コストダウンに注力

■ 電子材料関連需要は概ね堅調

➡ 多結晶シリコン投資の時期・内容を早急に固める



2-(2) 06年度業績予想

- ①06年度業績予想の前提
- ②セグメント別 売上高/営業利益
(06通期予想/05通期実績対比)
- ③セグメント別 売上高/営業利益
(06上期予想/06下期予想)
- ④セグメント別 売上高/営業利益推移
- ⑤ここ10年間の業績推移



① 06年度業績予想の前提

		05上 実績	05下 実績	06上 会社予想	06下 会社予想
国産ナフサ価格 (円/KL)		38,000	46,700	52,700	50,800
為替 (円/\$)	輸入	109	117	120	115
	輸出			115	110



② セグメント別 売上高/営業利益(通期比較)

(億円)

	06/通期予想		05/通期実績		増 減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化学品	1,081	42	1,026	76	+ 54	+ 5	▲34	▲45
トクヤマ	796	20	748	39	+ 47	-	▲19	-
Gr. 会社(連結修正含む)	285	22	278	37	+ 6	-	▲15	-
特殊品	892	240	767	161	+124	+16	+ 78	+49
トクヤマ	666	216	547	140	+118	-	+ 75	-
Gr. 会社(連結修正含む)	226	24	219	20	+ 6	-	+ 3	-
セメント建材・他	877	43	840	34	+ 36	+ 4	+ 8	+23
トクヤマ	418	24	416	20	+ 1	-	+ 3	-
Gr. 会社(連結修正含む)	459	19	423	14	+ 35	-	+ 4	-
計	2,850	325	2,633	272	+216	-	+ 52	-
セグメント間消去・全社費用	-	▲35	-	▲29	-	-	▲ 5	-
連結決算	2,850	290	2,633	243	+216	+ 8	+ 46	+19



③ セグメント別 売上高/営業利益(上/下予想)

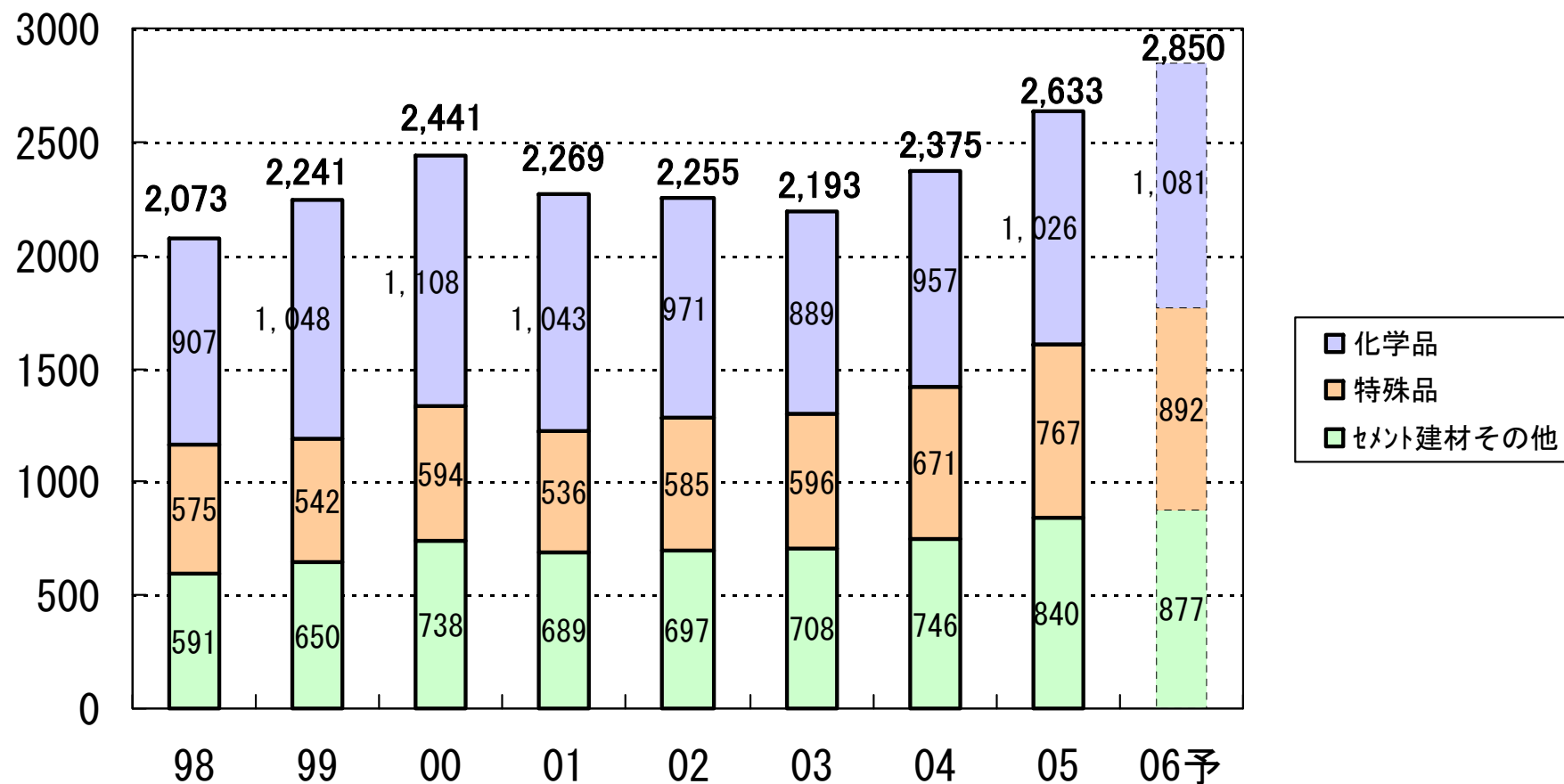
(億円)

	06/上期予想		06/下期予想		06/通期合計	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化学品	536	21	545	21	1,081	42
特殊品	419	111	473	129	892	240
セメント建材・他	430	20	447	23	877	43
計	1,385	152	1,465	173	2,850	325
セグメント間消去・全社費用	-	▲17	-	▲18	-	▲35
連結決算	1,385	135	1,465	155	2,850	290



④ セグメント別 売上高推移 (連結)

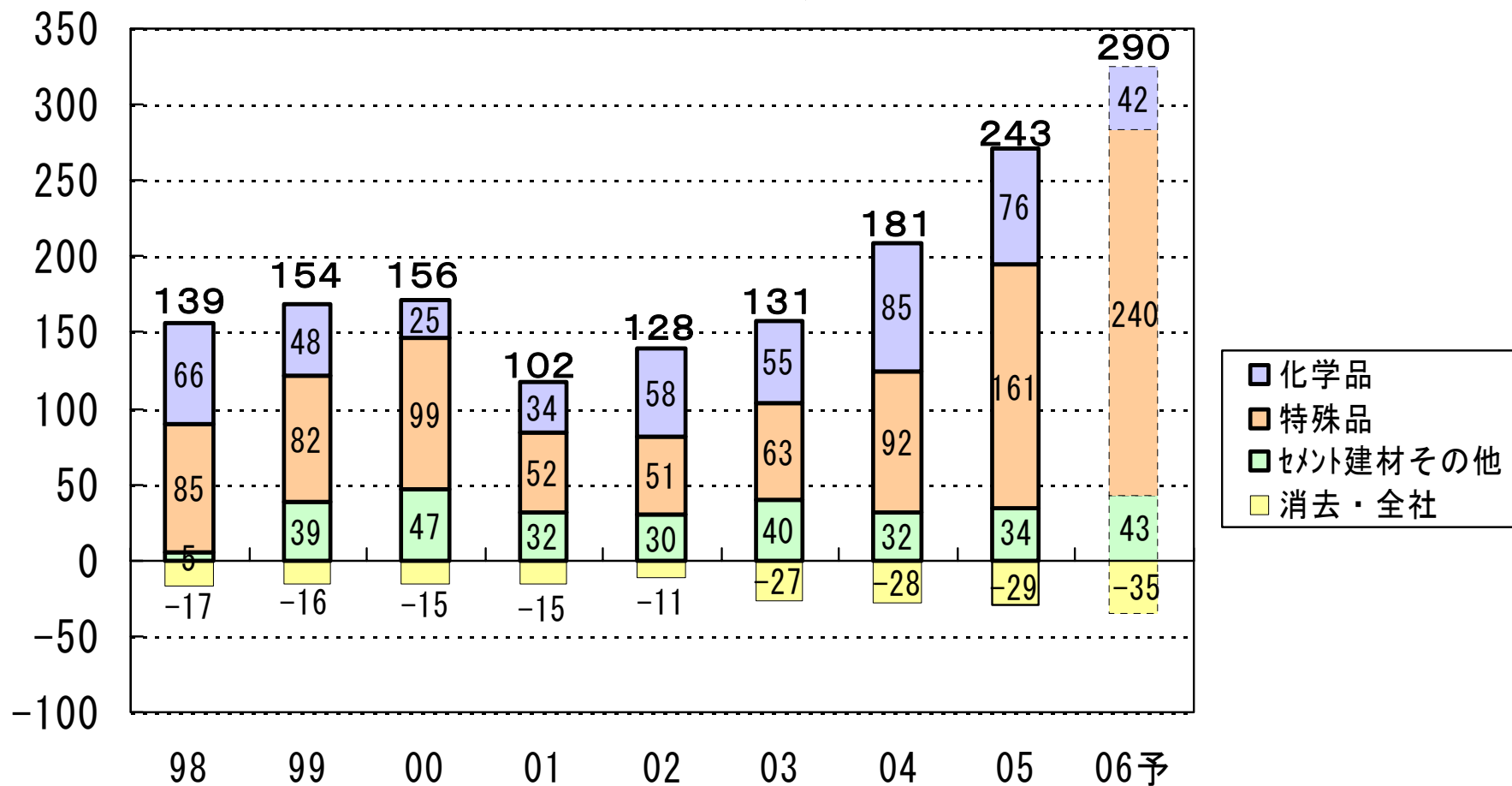
(億円)



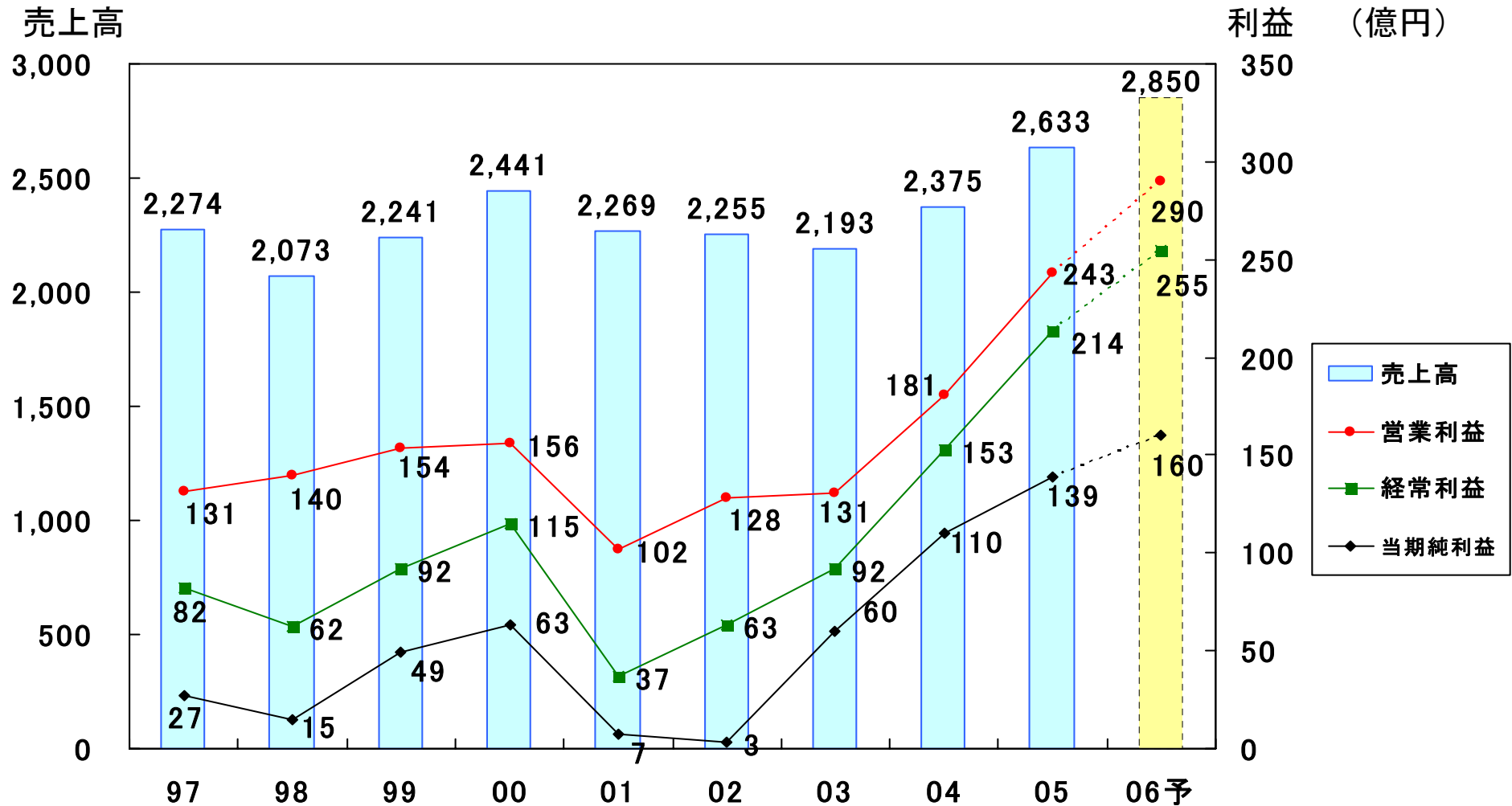
セグメント別 営業利益推移（連結）

（03年度以降は新会計処理方法により表示）

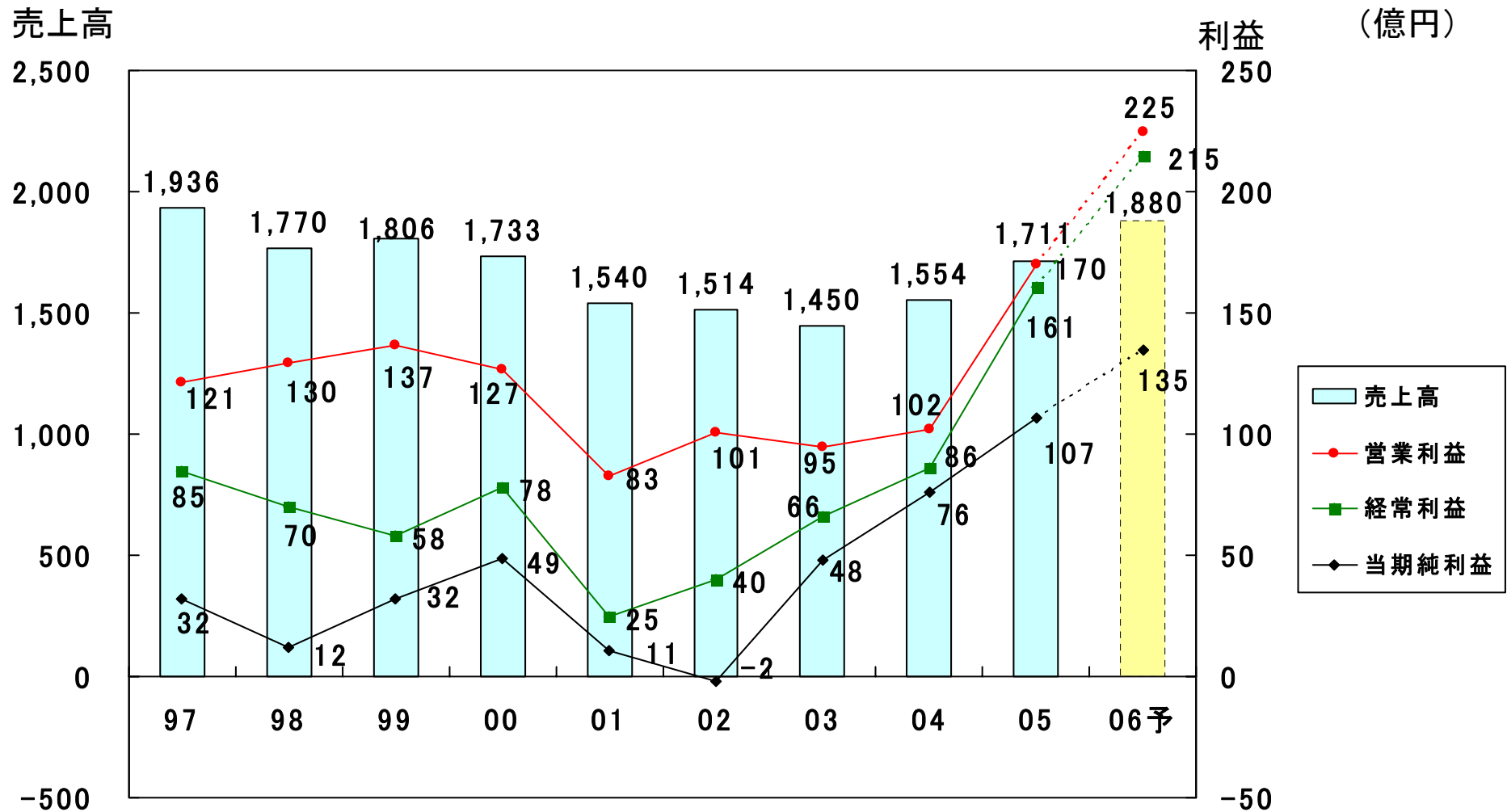
（億円）



⑤ ここ10年間の業績推移（連結）



ここ10年間の業績推移(単体)



3. 3ヶ年計画の進捗／トピックス

- (1) 4つの成長への取組み
- (2) 事業の成長
- (3) インフラの成長



(1) 4つの成長への取組み

● 事業の成長：「質の成長」「量の成長」

▶ 事業の内容と進め方を変える取組み

▶ 「質の成長」：競合他社に対する事業の差別化を進める

▶ 「量の成長」：「攻める」事業について、規模による差別化を進める

▶ 事業ポジション設定

▶ 「攻める」事業：「質と量の成長」を目指す事業

▶ 「守る」事業／「切り拓く」事業：

それぞれのポジションに合った「質の成長」を目指す事業

● 「機能の成長」

「事業の成長」を実現するための組織、人財の変革

● 「インフラの成長」

▶ 徳山製造所をマザーファクトリーと位置付け世界最適立地での製造体制を目指す

▶ 徳山製造所のインフラ整備に向け最適シナリオを検討する

▶ 情報インフラ：新たなシステム構築に向け検討を行う



4つの成長における事業ポジション

	事業の成長		インフラの成長	機能の成長
	質の成長	量の成長		
攻める	乾式シリカ ICケミカル	電子材料	世界最適立地 徳山製造所のインフラ整備 情報システムの再構築検討	PDCAサイクルによる戦略実行機能 企業の持続性を担保する機能 PJ制活用による部門間の横通し機能 人財の元気を生み出す仕組みの整備
切り拓く	湿式シリカ ファインケミカル シェイパル 新規・研究 独立事業会社 洗浄システム NF(微多孔質フィルム) 資源環境			
守る	ソーダ・塩カル クロルアルカリ 塩ビ(VCM) NOC セメント			



(2) 事業の成長 ①

■ 電子材料事業の現状

● 太陽電池用多結晶シリコンVLD法実証プラント

05年12月完成 ⇒ 実証試験を着実に実施中

● 多結晶シリコン能力増強についての考え方

- ▶ 太陽電池用については競争力に勝るVLD法の技術確立に全力をあげ、VLD法により世界シェアの拡大を図る。
- ▶ 半導体用（ジーマンス法）の能力増強についてもプロジェクトにて別途検討中。

⇒ 長期的な需給動向を見極め、トータルとして最適な事業展開を図る。



(2) 事業の成長 ②

■ 乾式シリカ事業の動向

— 中国市場へ進出 —

市場が拡大しつつある中国に乾式シリカの製造・販売子会社を設立し、戦略製品である乾式シリカの事業展開を図る

【会社概要】

〔会社名〕	徳山化工（浙江）有限公司
〔所在地〕	浙江省嘉興市
〔株主構成〕	トクヤマ100%
〔設立〕	2005年9月
〔操業開始〕	2007年末（予定）
〔投資金額〕	4,000万米ドル（予定）
〔生産能力〕	5,000トン／年



(2) 事業の成長 ③

■フッ化カルシウム(CaF₂)単結晶開発の進捗

ー市場での実証ステージへー

- ▶ プラント第一段階工事完了
製造設備の設置完了、サンプル製造開始
- ▶ 次世代ArF液浸ステップ-用レンズのスペッククリアに目処
試験的採用に向け顧客にて評価継続
- ▶ 事業化に向けて
品質・製造技術の最終的な詰め、市場規模・動向の確認



(2) 事業の成長 ④

■ 単結晶窒化アルミニウム(AIN)開発の進捗

— 高品位単結晶窒化アルミニウムの新製法を開発 —

- ▶ 東北大と共同で、実用上欠陥フリーな単結晶窒化アルミニウムの新製法を開発
- ▶ 用途は、深紫外発光素子の基板材料
 - 深紫外発光素子；青色発光素子の次世代品で、市場規模が大きな殺菌装置や白色照明への応用が見込まれる
- ▶ つくば研究所に開発設備を新設、2年後の事業化を目指す



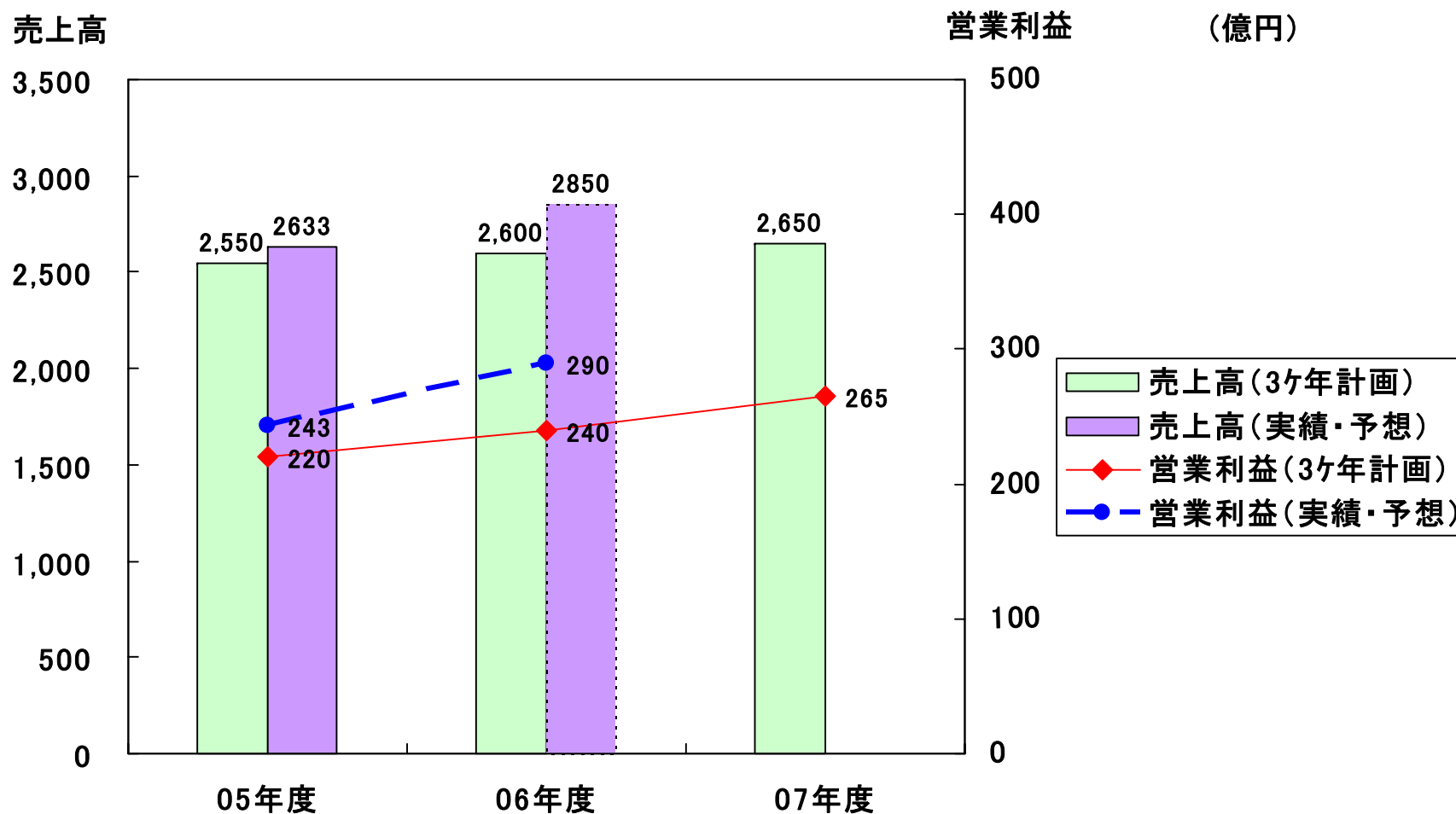
(3) インフラの成長

■ 徳山製造所工場用地の拡張・整備

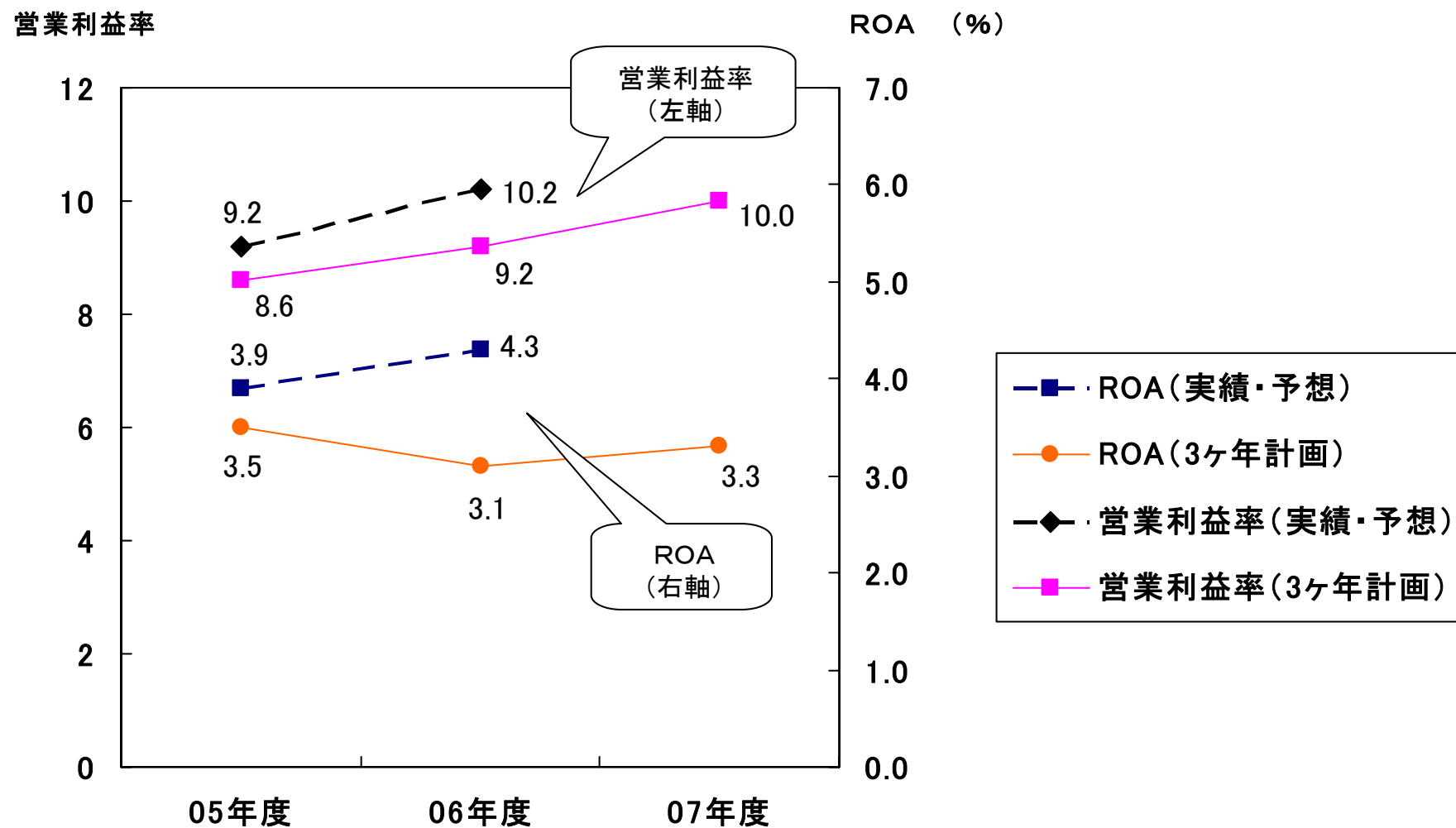
- ▶ 東工場の埋立て造成工事竣工
→ 新たな工業用地を確保
- ▶ 140万㎡ ⇒ 165万㎡ (+25万㎡)



売上高、営業利益の3ヶ年計画と推移(連結)



ROA、営業利益率の3ヶ年計画と推移(連結)



4. 買収防衛策の導入

(1) 買収防衛策導入の目的

▶ 株主共同の利益保護

- ▶ 大規模買付の是非を株主が判断するための情報・時間を確保

(2) 買収防衛策の概要

▶ 大規模買付者への事前警告型

▶ 大規模買付ルールの設定（情報提供＋買付60～90日停止）

▶ ルール違反者・明らかな価値毀損者へ対抗措置発動

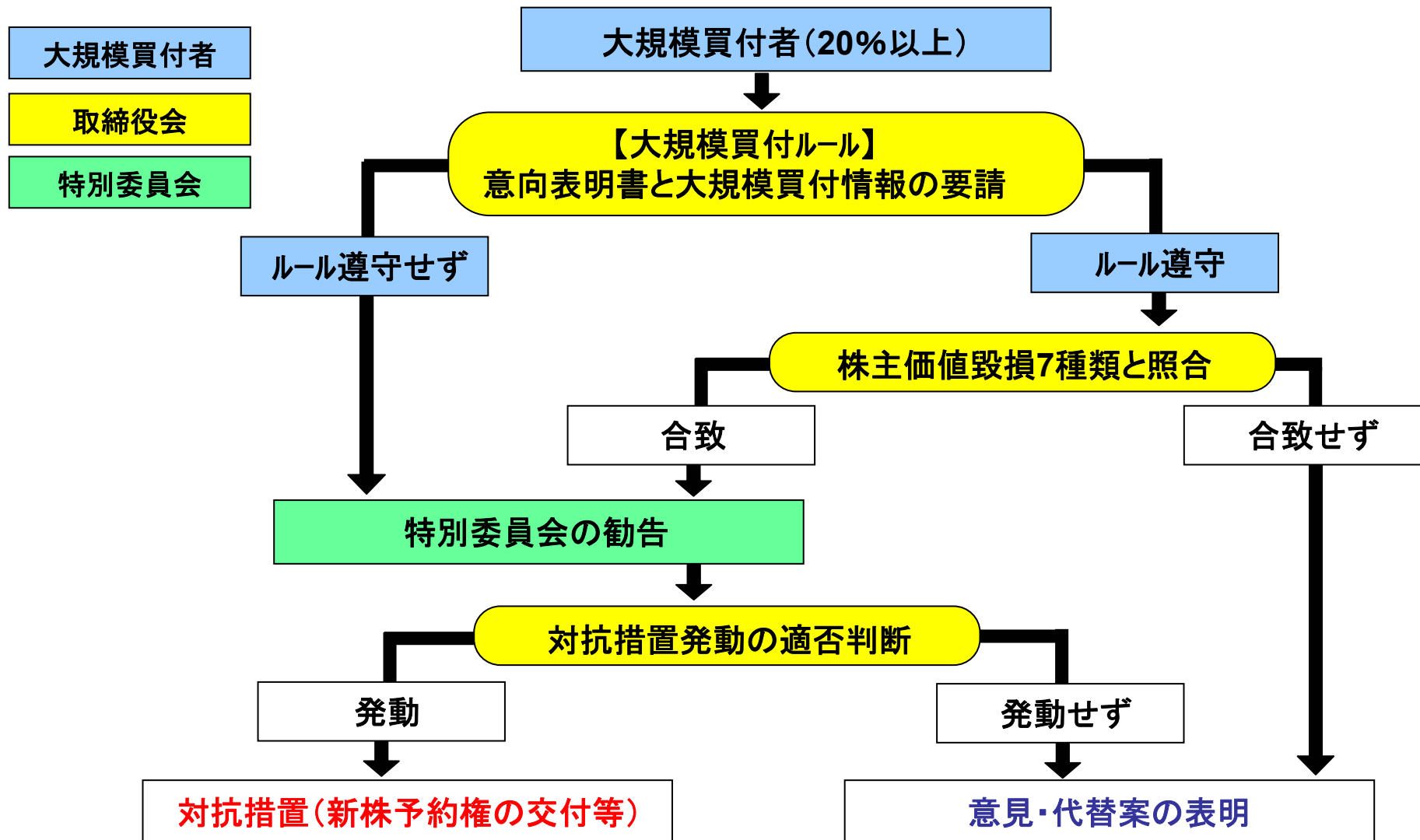
- ▶ 対抗措置発動に際し、特別委員会に諮問

- ▶ 発動の適否は特別委員会の勧告を尊重し、取締役会が判断

▶ 仕組みの導入については株主総会議案とする予定



(3) 買収防衛策（仕組み）



5. 内部統制システム構築の基本方針

(1) 内部統制システム構築の目的

経営の基本方針である「社会と共鳴する経営」の実践による「顧客に選ばれ続けるトクヤマグループ」の実現に向け、業務の適正を確保する体制を構築

- ▶ グループ役職員の職務執行における以下の体制構築を目指す
 - ▶ 法令・社内規程等の遵守を確保する体制
 - ▶ 様々なリスクを管理できる体制
- ▶ グループ役職員の職務執行における効率性確保を目指す

(2) 体制構築の統括組織を設置

- ▶ 社長を委員長とする組織を設置し、体制の構築、整備、運用、改善を統括



生活を奏でる化学です

TOKUYAMA



(1) 主要指標②

(億円)

		06年度予想		05年度		04年度	
		連結	単体	連結	単体	連結	単体
設備投資額	認可枠合計	239	218	245	221	175	150
	実績(計上)	—	—	209	184	143	125
減価償却費		180	149	181	142	184	146
研究開発費		115	93	93	72	88	68



